

歳出 49億4,105万円

(単位：万円、%)

区 分	金額	構成比
①総務費	55,074	11.2
②民生費	100,507	20.3
③衛生費	80,182	16.2
④農林水産業費	15,432	3.1
⑤土木費	41,904	8.5
⑥消防費	44,105	8.9
⑦教育費	32,329	6.5
⑧公債費	62,514	12.7
⑨職員給与費	45,992	9.3
⑩その他	16,066	3.3
計	494,105	100.0

まちづくりのために行われた主な事業

- 一般廃棄物収集・処理事業—— 約1億8,668万円
ごみの収集や処理、ごみ袋の作成等を行いました
- 除排雪事業—— 約1億7,678万円
冬期間、町道の除排雪を行いました
- 災害復旧事業—— 約2,750万円
昨年11月2日に発生した豪雨において被災した公共施設及び道路等の災害復旧事業を実施しました。
- 中央公民館外壁・屋外建具改修工事—— 約7,679万円
老朽化した中央公民館の改修工事を実施しました。
- 中小企業・小規模企業経営改善等支援事業—— 約2,191万円
町内中小・小規模企業の施設等の改修・設備更新・新技術の導入等に取り組んだ企業に助成金を交付しました。
- 木古内町漁業者チャレンジ応援補助金—— 約1,360万円
町内の漁業者の新たな人材の発掘や漁業者の生産活動の安定化を図るため、種苗購入や施設・漁具の導入等に係る費用の一部を助成しました。
- 高度無線環境整備推進事業—— 5,877万円
地域における情報格差を解消するため、光ファイバー網の整備工事を実施しました。
- 街路灯LED化工事—— 約1,100万円
町内の道路照明灯のLED化工事を行いました。

令和3年度の一般会計歳出は、前年度よりも約4億6千万円の減額決算となりました。

科目別では、民生費が特別定額給付金事業や小規模多機能型居宅介護施設整備事業などの減により約3億9千万円の減額、土木費では港団地建替工事の完了などにより約4億円の減額となっています。一方で総務費では財政調整基金やまちづくり応援基金などの積み立て約9千万円、令和2年度からの繰越事業である高度無線環境整備事業負担金で約6千万円など、合計で約1億7千万円の増額、衛生費が新型コロナウイルスワクチン接種事業などにより約8千7百万円の増額、災害復旧費では昨年11月の豪雨災害の復旧事業の実施により約3千万円の増額となっています。

また、資金不足比率は、簡易水道、国民健康保険病院、高齢者介護サービスの事業会計において、それぞれの程度資金不足が発生しているか表す比率で、21%を超える経営健全化計画の策定などを行うこととなりますが、全ての事業会計において、資金不足にならず、比率はマイナスとなりました。

健全化判断比率は、町の財政状況を表す4つの比率からなり、数値によっては、自主的な努力により財政健全化に取り組む「早期健全化基準」、国などの関与によって確実な財政の再生を行う「財政再生基準」に分類されます。当町は、下表のとおり、令和3年度決算については、どの比率についても基準値を上回ることはありませんでした。

区 分	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準	内 容
実質赤字比率	—	15.0%	20.0%	一般会計等における赤字額の標準財政規模に対する比率
連結実質赤字比率	—	20.0%	30.0%	全ての会計における赤字額(事業会計は資金不足額)の標準財政規模に対する比率
実質公債費比率	12.7%	25.0%	35.0%	一般会計等における公債費(借金)の標準財政規模に対する比率
将来負担比率	73.3%	350.0%	—	全ての会計において、将来負担すべき公債費等の負債の標準財政規模に対する比率

※標準財政規模—一般的な税収と普通交付税による標準的な行政運営を行う金額で、令和3年度の木古内町の標準財政規模は、約29億9,434万円となっています。

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は、赤字額がないため、「—」と表示しています。

健全化判断比率・資金不足比率